第61回
水道週間

児童生徒作品展
入賞作品集

会津若松市

第61回水道週間児童生徒作品展入賞作品集

【図画の部】

・小学校低学年（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・水道事業管理者賞）……1
・小学校高学年（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・水道事業管理者賞）……4
・中　学　校（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・水道事業管理者賞）……7

【書写の部】

・小学校低学年（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・水道事業管理者賞）……10
・小学校高学年（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・水道事業管理者賞）……11
・中　学　校（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・水道事業管理者賞）……13

【標語の部】

・小学校低学年（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・水道事業管理者賞）……15
・小学校高学年（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・水道事業管理者賞）……16
・中　学　校（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・水道事業管理者賞）……17

【作文の部】

・小学校低学年（市長賞・市議会議長賞・教育長賞）……18
・小学校高学年（市長賞・市議会議長賞・管工事協同組合理事長賞）……23
・中　学　校（市長賞・市議会議長賞・教育長賞）……29

【図画の部】
〈小学校低学年〉

〔市長賞〕 会津若松市立門田小学校　２年　山口　寛仁

〔議長賞〕 会津若松市立謹教小学校　２年　坂本　修吾

〔教育長賞〕 会津若松市立謹教小学校　1年　佐々木　星花

〔理事長賞〕 会津若松市立行仁小学校　2年　田中　研心

〔管理者賞〕 会津若松市立城南小学校　３年　上野　悠眞

■審査講評

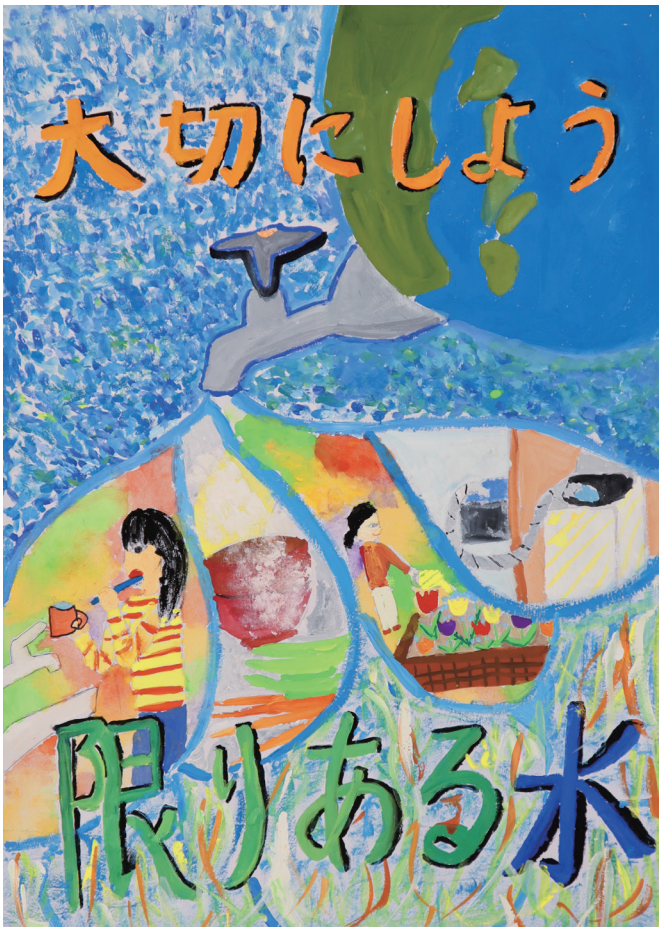
日常の生活の中で、水がどんなところで、どのように使われているかを思い出しながら描いていることが伝わってきました。

水との関わりで楽しかったこと、深く思い出となって残ったことが表現されている作品は見ている私たちの心にも楽しさ、うれしさが伝わり、水を通していろいろな気付きができました。

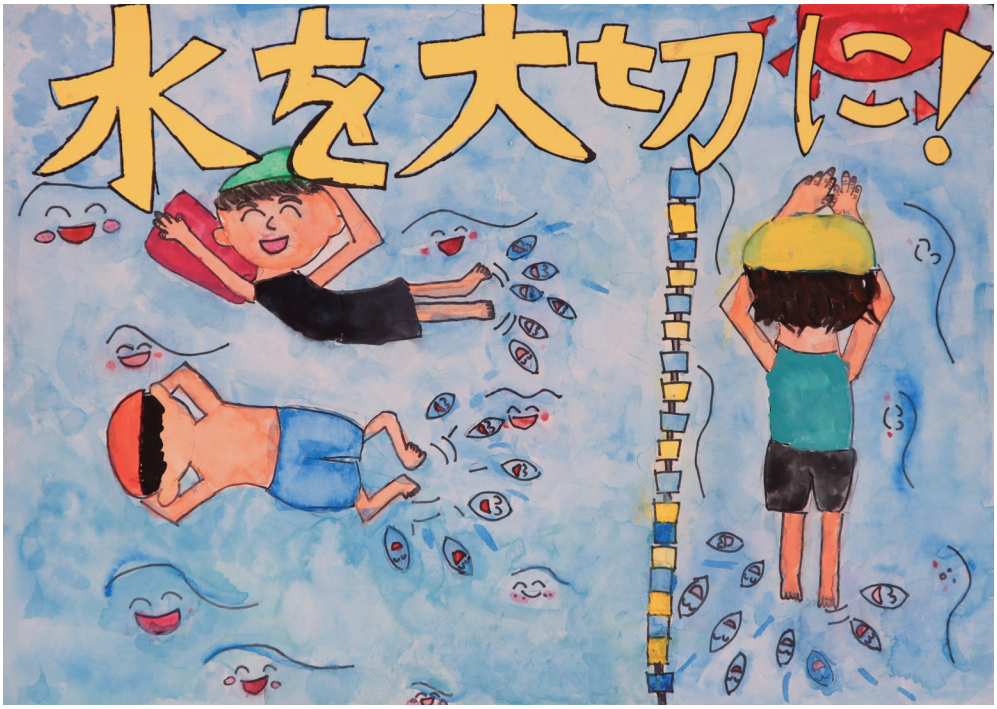
これからも気付きを大切に物事をとらえて楽しんで描いていって欲しいです。

〈小学校高学年〉

〔市長賞〕 会津若松市立荒舘小学校　５年　鈴木　愛維華



〔議長賞〕 会津若松ザベリオ学園小学校　６年　小澤　梨乃



〔**教育長賞**〕 会津若松市立荒舘小学校　５年　**赤城　花歩**

〔**理事長賞**〕 会津若松市立城北小学校　４年　**小原　さくら**

〔管理者賞〕 会津若松市立城南小学校　４年　**和須津　辰也**

■審査講評

高学年になると、〝もの〟と〝もの〟の関係、〝もの〟を通しての友人関係や周りの虫や花などの生き物との関係などを考えるようになります。また、世界とのつながりも考えるようになり、「水を見る目」が深まってきます。

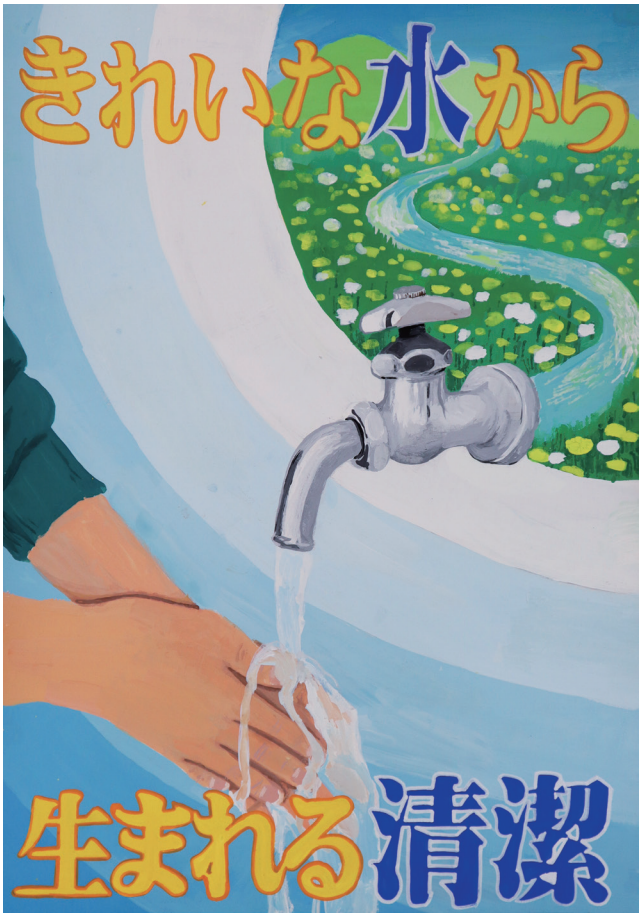
入賞した作品は、どれも形や色を工夫して、はっきりと自分の考えを表しています。「ぼくはこう思ったよ」「私はこう考えているよ」と水についての想いがくっきりと出ていました。すばらしいことです。これからも友達のまねをしないで絵を描きましょう。そして、水を見るたび、使うたびに水について考え心豊かに育ってほしいと思います。

〈中学校〉

〔市長賞〕 会津若松市立第一中学校　２年　宮田　明音

〔議長賞〕 会津若松市立第一中学校　３年　平　瑠梨

〔教育長賞〕 福島県立会津学鳳中学校　３年　佐藤　文夏



〔理事長賞〕 会津若松市立第一中学校　１年　坂本　林檎

〔管理者賞〕 会津若松市立第一中学校　1年　風間　皇輝

■審査講評

与えられたテーマである「水道に関するもの」から、それぞれの発想で画面を構想し、自分の訴えたいことを表現することができていました。

今回特に印象に残ったのは色彩の美しさです。入賞したどの作品もポスターカラーやアクリル絵の具、色鉛筆などそれぞれの表現材料の良さを生かしながら自分なりの美しい色彩（配色）で描いています。

また、平塗りでのグラデーションやかすれやにじみの表現、色鉛筆の濃淡など自分の表したいイメージを効果的に表現しようと色々な技法を工夫していて感心しました。

それぞれの作品が、思いを込めて丁寧にじっくりと取り組んだ力作であり、審査しながらあらためて造形表現の可能性を感じさせられました。

【書写の部】

〈小学校低学年〉

〔議長賞〕
会津若松ザベリオ学園小学校
3年　愛澤　華蓮

〔市長賞〕
会津若松市立行仁小学校
3年　安田　早矢

〔理事長賞〕
会津若松市立城西小学校
3年　木村　泰己

〔教育長賞〕
湯川村立笈川小学校
3年　谷ヶ城　玲

■審査講評

紙面に対する文字の大きさが工夫されている作品が多くありました。「す」のはらいが紙面内に収まらず、バランスがとれない作品も見られました。

上位の作品は、本文だけでなく「名前」もしっかり書けていて、全体に調和がとれていました。

1・2・3年生らしくのびやかで素直な字が多く見られました。筆の持ち方、運筆の仕方、姿勢等の書写の基礎を小学校低学年の時期にしっかり身に付けることが大切です。

〔管理者賞〕
会津若松市立松長小学校
2年　佐藤　希美

〈小学校高学年〉

〔市長賞〕
湯川村立笈川小学校
6年　谷ヶ城　奏

〔議長賞〕
会津若松市立大戸小学校
6年　山田　絵里加

〔教育長賞〕
会津若松市立一箕小学校
6年　中田　千尋

〔理事長賞〕
会津若松ザベリオ学園小学校
6年　宮崎　真菜

■審査講評

しんにょうのある文字が二文字と右はらいの文字を含む四文字を半紙に収めるのはかなり難しいことですが、上位の作品は字形や文字の大きさを工夫し、バランスよく仕上げられているのに感心しました。

「間」は横画が多く、画間がほぼ同じ筆圧の線で等間隔に書かれている作品が多くみられ、一画一画を丁寧に心を込めて書いている様子がうかがわれました。

名前の大きさや位置について作品全体のバランスを考えながら、さらに練習をしてほしいです。

〔管理者賞〕
会津若松市立鶴城小学校
5年　五十嵐　あみ

〈中学校〉

〔市長賞〕
会津若松市立一箕中学校
2年　**森　円花**

〔議長賞〕
会津若松市立第一中学校
3年　**星　晴夏**

〔教育長賞〕
会津若松ザベリオ学園中学校
2年　**小林　陽菜**

〔理事長賞〕
会津若松市立第五中学校
3年　**芳賀　岳斗**

〔管理者賞〕

福島県立会津学鳳中学校
3年　鈴木　未来

■審査講評

四字の課題に対して、用紙の大きさを生かしながら伸びやかに書いた作品が多かったです。2年生にも優秀な作品が多かったことが印象的です。行書で書くことにも慣れていることを感じました。行書ならではの丸みを帯びた筆遣いと、丁寧に書かれた美しい線で仕上げられた作品が上位となりました。

上下の中心線や横画の間隔のバランスを取るのが難しかったと思います。名前も作品に合わせて、行書でしっかりと書かれています。

【標語の部】

〈小学校低学年〉

〔市長賞〕

会津若松市立湊小学校　一年　五十嵐　天惺

会津若松市立湊小　学校　一年　氏名 いがらし てんせい

とめながぼくはすいどうみまわりたいいん

〔議長賞〕

会津若松市立湊小学校　一年　渡部　悠希

会津若松市立湊小　学校　一年　氏名 わたなべ ゆーき

ごくごくごくやっぱりぼくはみずがすき

〔教育長賞〕

会津若松市立小金井小学校　二年　大山　愛心

小金井小　学校　二年　氏名 矢山あこ

じゃくちから水のなみだがこぼれてる。

〔理事長賞〕

会津若松市立小金井小学校　二年　渡辺　蒼惟

小金井小　学校　二年　氏名 渡辺蒼惟

雨ふってまた生まれたよ水の赤ちゃん

〔管理者賞〕

会津若松市立城西小学校　三年　半沢　悠乃

城西小　学校　三年　氏名 半沢ゆの

オリンピックおいしい水をせかいの人にも

■審査講評

自分の素直な気持ちをストレートに表現した作品が多く見られました。実体験を思い出してその時の様子を飾らずに表現した作品は、読み手に心情がとてもよく伝わってきました。

これからも水と触れ合い、そこからたくさんのことを感じ取っていってほしいと思います。

〈小学校高学年〉

〈市長賞〉

会津若松市立城西小学校　六年　森　絢音

城西小　学校　六年　氏名　森絢音

節水で　私が守る　水資源

〈議長賞〉

会津若松市立小金井小学校　五年　善澄　咲輝

小金井小　学校　5年　氏名　善澄咲輝

「あたり前」はおくり物
感謝してうけとる　水道水

〈教育長賞〉

会津若松市立河東学園小学校　五年　佐竹　奈花

福島県会津若松市立河東学園小学校　五年　氏名　佐竹　奈花

じゃ口から
おいしい安全
とどけます

〈理事長賞〉

会津若松市立河東学園小学校　五年　渡部　碧

福島県会津若松市立河東学園小学校　五年　氏名　渡部　碧

年中無休　働き者だね水道水

〈管理者賞〉

会津若松市立小金井小学校　四年　島田　愛琉

小金井小　学校　4年　氏名　島田愛琉

ぼくたちも地球も水で生きている。

■審査講評

水を大切にしようとする姿勢がどの作品からも感じ取ることができました。特に入賞した作品からは、節水の大切さや水のありがたさをみんなに知ってほしいという強い意図が感じられ、表現にも工夫が見られた点が評価につながりました。

〈中学校〉

〔市長賞〕

会津若松市立第三中学校　三年　五十嵐　絢音

若松第三中　学校　三年　氏名　五十嵐　絢音

蛇口から
あふれでてくる
エネルギー

〔議長賞〕

会津若松市立一箕中学校　二年　佐藤　有紗

会津若松市立一箕中　学校　二年　氏名　佐藤　有紗

輝く水
私達が残す
未来遺産

〔教育長賞〕

会津若松市立一箕中学校　三年　山浦　萌香

会津若松市立一箕中　学校　三年　氏名　山浦　萌香

溢れ出す
水と希望を
明日へと

〔理事長賞〕

会津若松市立第三中学校　一年　山口　華穂

会津若松市立第三中　学校　一年　氏名　山口　華穂

我がまちの
自慢の水で
おもてなし

〔管理者賞〕

福島県立会津学鳳中学校　二年　小貫　蒼依

会津学鳳中　学校　二年　氏名　小貫　蒼依

次世代の
のども未来も
潤そう

■審査講評

新学期の忙しい中、作品をつくろうとする意欲に、まず敬意を表したいと思います。作品募集の意図、水道週間の意義をよく考え、それを踏まえた作品がつくれるとなお良いと思います。リズミカルで、短く印象に残る作品が入賞を果たしました。独自の表現をさらに勉強してほしいと思います。

【作文の部】

〈小学校低学年〉

〔市長賞〕

会津若松市立一箕小学校　3年　田﨑　稟佳

会津の水はさい高だよ！

一き小　三年　田﨑　稟佳

「うわー、おいしい！」

「ねっ、おいしいでしょ。」

「本当に水道水？」

「そうだよー。」

四月に、私はいわきから来たおばあちゃんに桜を見るために、ハイキングに出かけました。朝から晴れていて、とても暑い日だったので、わたしは、水筒にたくさんの水を入れて、水道水をまんたんに入れました。

家を出発して歩いていると、上着をぬぎたくなるほど暑くて、せなかに汗もかいてきました。のどがかわいたので、小さな公園で二人で休けいすることにしました。わたしは、持ってきた水とうの水をごくごく飲みました。おばあちゃんはペットボトルのお茶をじゅんびしていたのに、げんかんにわすれてきてしまいました。それで、わたしの水とうを飲ませてあげました。すると、

「おいしい。」

と目をまるくしていました。そして、

「本当に水道水なの？」

と何度も聞いてきたので、何度も、

「そうだよ。」

と答えました。どうして、何度も聞くのかと聞いたら、いわきの水道水よりとてもおいしく感じたからだと言っていました。何ども水がおいしいと言われて、わたしは、自分がほめられているみたいでうれしくなりました。

わたしは、毎日学校へ水とうを持っていきます。お母さんが、

「中身は、お茶がいい？水がいい？」

と聞いてくれますが、わたしはいつも、

「水、水道水がいい！」

と答えます。前に、「こしぇる」のイベントでもらった水道水のペットボトルの水を飲んでから、水道水が大好きになったからです。

おばあちゃんが、いわきに帰るときに、

「今度、いわきに来るときに会津の水を持っ

てきてね」
と言いました。いわきにいるおじいちゃんに飲ませて、水道水なのにすごくおいしいから、びっくりさせたいと思っているそうです。おじいちゃんのびっくりする顔をそうぞうして、二人で大わらいしました。
これから、きせつは夏になるので、あせをかいたらおいしい水道水をたくさん飲んで、毎日元気にすごしたいです。

〔議長賞〕　会津若松市立小金井小学校　1年　**百瀬　寧衣子**

すいどうさんありがとう
こがねいしょう　1ねん
もも せ　ねいこ
うわばきをあらっていたら、あわがもこもこしてたのしくなりました。だから、たくさんせんざいをつけて、たくさんごしごししたら、もっともっとあわがいっぱいになりました。むちゅうでごしごしていたら、おかあさんによばれたので、いそいでみずをながしました。でも、あわがいっぱいで、なかなかながれませんでした。こまったなとおもっていると、おかあさんにみつかってしまいました。みずがもったいないから、せんざいはすこしにしてといわれました。そして、むかしはすいどうがなくて、みずはとてもだいじだった

とおかあさんがいいました。

ほんとうにむかしはすいどうがなかったが、じじにきいてみました。そうしたら、すいどうじゃなくていどみずだったといっていました。かわであらいものをするひともいたといっていました。ばばにもききました。やまのみずをひいてのんでいたといっていました。96さいのおおばあちゃんにもききました。こどものときは、いどからみずをくむのが、とてもたいへんだったといっていました。すいどうができて、とてもべんりになったといっていました。もし、いまもすいどうがなかったら、わざわざみずをくみにいかなきゃいけないから、いやだな。ふゆはゆきがふってさむいから、もっといやだな。おふろには、たくさんみずをつかうから、なんかいもくみにいくのはたいへんだとおもいました。

おがさわらにすんでいるおばちゃんは、みずがすくないから、せいげんされているといっていました。だから、たくさんせんたくものがあるときは、ぜんぶせんたくができなくてこまるといっていました。うちにはあかちゃんがいて、いつもたくさんせんたくものがあるから、もし、みずがすきなようにつかえなかったら、おかあさんはとてもこまるとおもいます。せんたくだけじゃなくて、みるくのおゆやほにゅうびんのしょうどくなど、あかちゃんのためにまいにちたくさんみずをつかっていることにきづきました。おかあさんは、

すいどうのみずはあんしんしてつかえるといっていました。すいどうがあってよかったな。

いままでは、いつでもすきなだけみずがつかえて、みずはなくならないとおもっていました。でも、みんなのはなしをきいて、みずってだいじだなとおもいました。だから、うねばきあらいをするときは、みずをたいせつにしようとおもいます。すいどうさんいつもありがとう。これからもよろしくね。

〔教育長賞〕　会津若松市立一箕小学校　２年　**中村　大**

水をまもる

一き小学校　二年　中村　大

ぼくは、水であそぶのが大すきです。手をあらっているときや、シャワーをあびるとき、しょっきを方づけるときに、ながれる水を見るのがたのしくて、ついついたくさんの水をながしてしまいます。するといつもおかあさんに、

「水がもったいないからあそばない。」

と、おこられてしまいます。

「なんで水をながしてはいけないの。」

「なんで水がもったいないの。」

と、いつもふしぎでした。

きょ年のなつ、とてもあつい日がつづきました。あつすぎて、学校のかえりみち、のどがかわいてはしってかえってきて水をのみました。雨もあまりふらなかったので、おとうさんとおかあさんは、

「水ぶそくになるかもしれないね。」

と、いっていました。

それでもぼくは、水はなくなるはずがないとおもっていました。なつ休み中は水えいのれんしゅうを、たくさんしたけれどプールにはたくさん水があったし、じゃ口をひねれば水はたくさん出ていたからです。

なつ休みがおわったころ、いとこがかよう小学校で水えいきろくがいができなくなったとききました。水がたりなくなったのでじゃ口から出る水をまもるために、プールの水をぬいたそうです。

ぼくは、せっかくれんしゅうしてきたのにきろくかいができなくて、かわいそうだなとおもいました。

でも、水がじゃ口から出なくなったらたいへんです。

のどがかわいてもお水がのめないし、手もあらえないしトイレにもいけません。プールはもちろん、おふろにだって入れません。ごはんもたべられなくなってしまいます。ふつうの生かつができなくなってしまいます。

そうかんがえたとき、

「水はなくならないものじゃない。」

「大せつにつかってまもっていかなければならないんだ。」

と気づきました。

水をまもるためにぼくができることは何だろう。

それは、ひつよういじょうの水を出さないこと。そして水をつかいおわったらじゃ口をきゅっとしめることです。

大すきなおいしい水をまもるために、ぼくができることをつづけていこうとおもいます。

■審査講評

家族とのふれあいの中で学んだことやその感想をきちんと表現している作品が多かったです。会話文も入り低学年らしいほほえましい表現が見られました。自分にできることを見つけてやっていこうという気持ちは大変すばらしいと思います。調べたことだけでなく、体験したことを豊かにふくらませて表現していくことが低学年ではとても大切だと思います。

〈小学校高学年〉

〔市長賞〕

会津若松市立城南小学校　5年　上野　航葵

水に感しゃ

城南小学校　五年　上野　航葵

「冷たくて気持ちいい。」

と、ぼくは毎朝、水道水で顔をあらうことが好きだ。そして、毎日水を使えることに感しゃしている。ぼくが、こう思うようになったのには、理由がある。

まず一つ目は、去年の夏に、水道の検しん員さんからの言葉だった。

「今回は、水をたくさん使いましたね。何か変わったことがありましたか。」

聞いていたおばあちゃんは、びっくりした様子で、

「特に何もしていませんでしたが。」

と答えていた。

「もしかしたら、水がもれているかもしれませんね。」

と、検しん員さんに言われ、あわてて水道屋さんに見てもらったが、どこもいじょうがなくて、おばあちゃんは困った顔で、

「何か水の使い方が悪かったのかしら」

と、ぼくに言ってきた。ぼくは、はっとした。そういえば最近、お風呂に入る時に、水をたっぷり入れて温泉みたいにして入っていて、弟と二人で水をじゃぶじゃぶ出していた。それと、暑いから、毎日朝と夕方に水まきをしながら、弟と水のかけ合いをして遊んでしまうこともあったのだ。これが、水道量金がふえてしまった原因なのだと思い、おばあちゃんに伝えてみると、

「使いすぎの原因が分かってよかった。水はただではないから、これからは大切に使おうね」

と言ってもらえてほっとした。それから、お風呂や水まきの時は、水の量を考えながら使うようにした。

もう一つの理由は、去年の秋に、東山浄水場を見学して、水が家にとどくまでの話を聞いたからだ。じゃ口をひねれば、水が出るのが当たり前だと思っていたが、水が出来るまでには、緑色の水が何度ろかされたり、働いている人が薬の量を調節したりしなければ、使える水にはならないことも教わった。これは、大変な仕事だなと思った。そしてぼくは、こんなに時間とお金をかけなければ出来ない水を、すい分とムダに使ってしまっていたことを反省し、一てき一てきを大事に使おう、使えることにありがとう、と思うようになった。

でも時々、感しゃの気持ちをわすれて、水遊びを楽しんでいると、

「ムダ使いしてるよ」

と、お母さんやおばあちゃんの声で「はっ」と気付かされる。

「またやっちゃった。次こそは、自分で気を付けるぞ」

と思うことがある。

色々な人からの話を聞き、水道水を使えることに、本当に感しゃしている。今は、水道からの水を当たり前に使っているけれど、こ

れから先、当たり前ではなくなる日が来るかもしれないことを、考えた。ちょっとこわいことかもしれないけれど、そうならないためには、ぼくたちや大人が、出しっぱなしやじゃ口のしめ方など、身近なところから気を付けていかなければいけないと思う。今の水がぼくたちの子供やその先の人たちのために残してあげたい、と思っている。

〔議長賞〕　会津若松市立行仁小学校　5年　南橋　優乃

ありがとう水道水

行仁小　五年　南橋　優乃

「今日も工事をやっているね。」

「土曜日の朝なのに、うるさいね。」

これは、ある日の母との会話です。

私の家の横では、水道管の工事を行っていました。休日の朝も行っていて、

「毎日うるさいな。」

と思っていました。家の前にも、工事のためのショベルカーが何台も停まっており、家の車を出し入れする時は、父も母も不便そうでした。私も歩きずらかったです。それが約半年間も続きました。

しかし、この間テレビで水道管の工事のニュースを見ました。震災の時に、水道管が古いとはれつして、水道水が使えなくなってしまうという内容でした。私は、その事を初めて知りました。もしかしたら、家の横の工事も新しく、強い水道管にかえるための工事だったのではないかと思いました。

もし、震災が起こってしまい、水道管がはれつしてしまったら。水道水が使えなくなるのです。水も当たり前に飲めないし、おふろやトイレもいつも通り使えません。料理も作れません。せんたくもできません。手あらい、うがい、歯みがきだって、いつも通りできません。

そうならないために、新しく、強い水道管にかえてくれていたのに、私は、

「うるさいな。」

「通りにくいな。」

と思っていた事が、急にはずかしくなりました。

この事から、私は、水道管がどれだけ大切な事なのかが分かりました。もしもの時の水道管の工事もどれだけ大切な事かが分かりました。この大切な水道管をつたって出てくる水道水。家でも学校も当たり前に使っている水道水に対して、私に出きる事を考えてみました。

一つ目は、水道水をむだにしない事です。学校では、給食前に手をあらいます。すると、友達が水を流しっぱなしにしながら、他の友達と話していました。私は、もったいないと思いましたが、注意する事ができなかったので、次からは、

「水がもったいないから、水をとめて、手をあらうようにしよう。」

と声をかけたいと思いました。また、私も意しきして、水を大切にしようと思いました。

二つ目は、おふろの残り湯をせんたくする時に役立てるなど、小さな工夫をたくさんする事です。一人一人の工夫で大切な水を守りたいと思いました。

最後に、水道管工事の人へ

「水道管の工事をしてくださり、ありがとうございました。水道管が大切だという事に気づき、水について、改めて考える事ができました。これからは、かけがえのない水をむだにしないよう大切にしていきます。」

〔理事長賞〕　会津若松市立荒舘小学校　5年　白井　るな

大切な水を守るために

荒舘小　五年　白井るな

みなさんは、人が一日に何リットルの水を使用しているか考えたことがありますか。わたしたちが生活する中で、水は、とても大切なものです。

ネットによると、上水道・下水道を合わせて、一人あたり一日に、二百から三百リットルの水を使用しているそうです。三百リットルとは、どの位の量かすぐに答えることはできませんが、大量の水だということはわかります。

そこで、母に聞いてみました。

「三百リットルの水ってどの位なの。」

すると、

「家庭用のお風呂にためた水の量と同じ位だよ。」

と、教えてくれました。「うわっ。そんなに使っているんだ。家族五人で、お風呂五つ分もの水を毎日使っているんだ・・・。」

毎日の歯みがきやトイレ、お風呂やシャワー、食事の時に使う水――。浄水場では、休み無しにきれいな水を作らなければなりません。本当にたいへんなことです。

そこで、わたしは、子どもから大人まで、みんなで節水を心がけることが必要だと考えました。

まず、一つ目は、「水の出し「ぱなし」」です。学校では、手洗いや歯みがきの時に、すぐ時だけ水を出していますが、家庭でも、お風呂に入った時に節水できます。こまめにシャワーを止めてみてください。シャワーは、一分間に十二リットルも水を使っているそうです。十分間シャンプーをしながらシャワーを出していたら、百二十リットルです。つまり、お風呂の半分の水を使っているのです。シャワーをこまめに止めることにより、かなりの節水ができるはずです。

そして二つ目は、みんなのお母さん達にお願いです。食器を洗う時、油で汚れた皿は、

ティッシュやキッチンペーパーでふき取ってから洗ってください。ひどい油汚れの皿は、つけ置きしておくことをおすすめします。洗剤は、量を守って使うことです。この方法で、会津盆地を流れている川を、少しでもきれいにすることができると思います。なぜなら、生活はい水のよごれが、川をよごしている全体の七割りに当たるからです。川のよごれを減らせば、浄水場での行程は、少しでも良くなると思います。

三つ目は、お風呂の残り湯を上手に活用できないか考えてみました。

みなさんの家の洗たく機には、きゅう水ホース入がついていると思います。そのホースでお風呂の水を洗たく機に入れ、洗う時だけでも使うことで節水することができます。さらに残っている水は、花だんの草花にまいてあげてもいいですね。

節約や節水とは、小さなことをこつこつと積み重ねて物や水を使うことだとわかりました。そして、環境に優しく、毎日続けられるような節水ができるよう、自分から進んで行動していきたいと思いました。

大切な水を守るために、わたしたちができること――。それは、少ない水で上手に水とつき合うことなのです。

■審査講評

水の大切さについて書かれた作品が多く、それによって「無駄な使い方をなくそう」と呼びかける内容がほとんどでした。

審査の対象としたところは、水をどのようにして飲み水にふさわしいものにしていくのかを、細かく順序立てて書かれたものを取り上げました。

内容的には、水のありがたさに思うところが多くあり、あれもこれも書かなければということで、盛りだくさんのものを紙面に書くのが多く、絞った内容での書き方は少なかったので、次回はこの点を注意して出品してほしいと思いました。

〈中学校〉

〔市長賞〕

会津若松市立第三中学校　3年　**鈴木　心渚**

水でおもてなし

若松三中　三年　鈴木（すずき）　心渚（ここな）

「日本の水道技術が平和を守る」こんな見出しが目にとまった。日本の技術支援で、安全な水を世界の国々の人に提供している。つまりそれがODAによる、人道支援の一つであり、人々の健康、安全、平和に大きく貢献しているというのだ。

日本は水道先進国であることは知っていたが、究極は世界平和に貢献しているということに驚いた。

―

「水清ければ、心澄み、人潤う・・・」。祖父の言葉が頭に浮かんだ。山間に住む祖父母が山を守り、川の水の神様に手を合わせ、水を大切にしていたことを思いだした。山からの伏流水が、雪解け水となって川をつくり、流れ、農業用水や、巡り巡って水道水として、飲み水や食べ物の水源となり、体内に取り込まれ、健康を守り、家族や地域の人々が幸せに暮らせることを願っていたからだと教えて

くれた。人の幸せは、身体と心が健康であることが大切であり、人々の幸福と平和は命の水に守り支えられていることを改めて感じた。

昨年の夏も、異常気象続きで、西日本の集中豪雨で被災した人たちは、命を守る水を求めて長蛇の列。熱中症にもなりかねないという二つ三つを繰り返し目にした。新聞にも、給水車の前に列をなす写真が大きく掲載されていた。人智の及ばないほどの天災には無力で、多くの方が犠牲となった悲しみや、人間は水によって生かされていることが、否応でも思い知らされた。地球温暖化が叫ばれて久しいにも関わらず、未だにその進行をとめることはできず、深刻化している。これは、地球全体の環境問題であり、水の惑星地球に住む人類にとって、未来へと続く重大な問題であることは明白である。

私の住む福島県では八年前に東日本大震災にみまわれた。最も大切なものが水であった。飲み水はもとより、避難してきた人々も、トイレの水が流れないので、トイレを我慢したり、お年寄りも、トイレの回数を気にして水分をとらなかったりして、健康を害したことがあったと聞いた。水が命を守る鍵なのだ。

母が、家計簿を付けていると、検針票に上水道代に応じて、下水道代が決められていることが書かれており、水道水を使ったぶだけ、その処理にも費用がかかり、自然界で循環していることがわかる。水はひとつの循環の中にあり、表裏一体であることがわかる。母の言う、お財布にも環境にも優しい節水の必要性がわかった。

2020年、来年はいよいよ東京オリンピックの年だ。選手はもとより、世界中の人々が日本を訪れるだろう。選手村やホテル等で、衛生的な生活環境を提供するだけでなく、ユネスコ文化遺産の「和食」を支えるのも、おいしい水道水であることは、言うまでもない。日本を訪れた人々に、世界一安全でおいしい水道水がおもてなしの要となる。日本の水道

水は、ミネラルウォーターなどよりも厳しい基準で製造されており、安心安全なおいしい水であることを感じてほしい。

世界に誇れる日本の水道水は、まさに水道水の金メダリストだと思う。命を守り、人々に安心・安全を届ける事はもとより、社会経済・政治情勢、文化の発展など、全てに影響をもたらす。環境問題対策を共有し、水をコントロールすることが、最終的には人類の平和を維持するものであることがわかった。

世界中の人に夢と感動を与える平和の祭典、「オリンピック」を日本の優れた水道水が支えてくれるに違いない。そして、その水道水を作り出す技術を開発し、日々休むことなく作り出す仕事に従事したり、ごまた水道水を日本の隅々まで届けるインフラ整備をしたりしている人々の努力に感謝したい。

衛生的で、おいしい水を作り出すだけでなく、日本中にいきわたらせていることが、世界中を見ても優れた水道事業なのだと思う。

日本の水道普及率は九十九・九%ぐらいであり、全国どこにいても水道が使える環境が整備されていることは、世界的に見ても稀であるそうだ。水道管をひとつなぎにすると、その距離は約六十五万キロメートルになる。それだけの距離を一つ一つていねいに、作業し、日本中に、水道管をはりめぐらせた、工事関係者のたゆまぬ努力にも頭が下がる。

しかし、そのうち、地球二周分以上に相当するハ万キロメートルが、耐用年数を超え、更新の時期を迎えているそうだ。私の住む地域でも、時々、工事をしているのを見かける。日々、安定して供給できるように、工夫や努力をされていることがわかる。

私はオリンピックを迎える今だからこそ、水の大切さ、日本の水道水のすばらしさを、世界に向け発信していきたい。そして、平和で美しい水の地球が保たれるように、環境への初めの一歩を、水循環のループの中にいる私達が、踏み出さなければならないと思う。

〔議長賞〕　会津若松市立第一中学校　1年　星　祐輝

令和へ続く水の道

若松第一中学校　一年　星　祐輝

「すごい水がいっぱいあるなあ。コンクリートの高い塀がかっこいいなあ。」

高い塀の向こうのダムに貯められた青々としたたくさんの水。去年のゴールデンウィークに家族で大川ダムの見学に行った。大川ダムは昭和四十六年から十六年もの年月をかけ、会津盆地へ農業用水や工業用水を供給するため、また洪水調節の目的のために造られた。

ダムの地下に入ると、ひんやりとしていて気持ちが良かった。ダムには約四万五千リットルも水があるから、相当の重さがかかっているのに、コンクリートが壊れないなんてスゴイ技術だなあと、とても感心した。

去年の夏は猛暑で、水不足とか、田んぼがひび割れていると報道されていたが、自分はそんな経験をしなくて済み、大川ダムなどの豊かな水資源のおかげなのだと思った。

僕のじいちゃんは野菜を作っている。僕は野菜がとても大好きで、じいちゃんに野菜をもらうのがうれしい。そのおいしい野菜もダムの水が農業用水として活躍しているおかげだ。そしてもらった野菜で母と一緒に料理をするのがとても楽しい。料理にも水道水が欠かせない。

小学生の時、ぼくは水泳部で、多くの大会に出た。天気のいい日に大きなプールで、声援を受けて泳ぐのは、とても気持ちが良かった。これも、水道水があるからだと思う。ぼくは、毎日いろいろなところで、水の恩恵を受けている。

いつでもどこでも蛇口をひねると水道水が出ることを当たり前のように生きてきたけれど、ダムを見学して、ダムを造るために集落の人たちが立ち退きをしてくれたことや、十六年もの長い年月をかけたことや、地盤を強化するためのマット工法という、当時の画期的な技術が使われているという、日本の技術の素晴らしさを知って、当たり前に水道水が

使えることには多くの人の苦労や努力がある
からだということに気付いた。

日本の水道の歴史は、室町時代にさかのぼる。その後、明治の頃の水道は病気が発生するなどあまり良い状態ではなく普及率も二パーセント程度であった。本格的な、近代水道は昭和に入ってからで、さらにダムなどの建設で水源の確保が図られた。水道水を作るためにたくさんの検査をし、衛生的な水も流せるようになった。そして、自然災害が多かった平成の時代には、地震などの被災地に給水車が出動して、水をじん速に届け、多くの人々を救ってくれた。ぼくはこのような環境が整っている日本に生まれたことを感謝しなければいけないと思う。そして安全で安心な水道水を二十四時間供給してくれるために、休まず働き続けている浄水場で働く人や、ダムや浄水場を作った技術者や工事をしてくれた人たち等の縁の下で支えてくれている人々の存在をぼくたちは忘れてはいけない。

ぼくの家のお風呂には一日に使ったお湯が分かるメーターが付いている。毎日、二百リットルのお湯を使っている。ぼくの家だけでこんなに使っていたら、世の中で、一体どれだけの水が毎日使われているのかとびっくりする。我が家では節水のために、お風呂のお湯で体を洗ったり、さらに残ったお湯で洗濯をしたりする。また、油を直接下水に流したり、洗剤を使いすぎたりしないようにしている。地球上の水資源には限りがあり、人間がそれを壊すことも簡単である。だからこそ、ぼくも水の無駄使いをしない努力、水環境を守る努力を、さらに続けていこうと思う。

令和という時代に変わった。室町から続く水の道も令和へ続いていく。「令和」という元号は人々が自分の花を咲かせられるようにという願いをこめてつくられた。人々が自分の花を咲かせるためにも水は欠かせない命の源。新しい時代になっても安心安全な水道水がずっとあるように、自分にできることを続

けていく。ぼくは数学や科学がとても得意で、大好きだ。将来、その得意なことを生かして、技術者になり、水道技術や社会に、役立つことができたらいいなと思う。

〔教育長賞〕

会津若松市立第三中学校　2年　上島　心春

震災から学んだ水の大切さ

若松三中　二年　上島（うえじま）　心春（こはる）

私たちは、普段当たり前のように水を使っているため、その水に何も感じないことがほとんどです。水はなくてはいけないもの、とよく分かったのは震災がおこった時だったと思います。

私の家は会津地方にあり、震源地から少し離れていたため水道が止まることはありませんでした。だから、その辛さを実感することもありませんでした。ですが、もし自分の家で水道がでなくなったら、と考えるとても不便だと思います。顔を洗う、皿を洗う、歯を磨く、洗濯する、お風呂に入る、トイレに入る、料理をするなどこの一日のスケジュールが壊れます。さらに植物や食べ物を育てている人たちは、水がなく、育てることは不可能になります。こんなことを考えると、一日の中でどれだけ水が必要で大切なのか、なかったら何もかもが出来なくなるのだなとよく

分かりました。

私のおばあちゃんは、熊本に住んでいました。ですが、二〇一六年四月十四日の熊本地震で水道が出なくなりました。そのため、歩いて遠いところまで行って、水をもらっていたそうです。実際におばあちゃんに話を聞くと、

「水がないと、顔も洗えないし、お風呂も入れない、トイレも流せないから大変だった」。

と言っていました。私たちが、当たり前だと思って使っている水道水を苦労して取ってきてるのだと思うと、水は本当に大切に一滴一滴使わないといけないなと思いました。

震災の時のことが気になったので、ネットで調べてみました。すると、「震災後、どんなことにお困りになられましたか」という質問に対して、多かったのが飲料水・食料・粉ミルクの確保、そして一番多かったのが生活用水の確保でした。やはり実際に避難を経験すると、水の確保が難しいようです。

そして、避難していた人たちの言葉も読んでみました。すると、「水や食料の備えが避難生活に役立ちました」という言葉がありました。私の家では飲料水を備えておくことなどはしていないので、いざとなったら困ってしまうと思います。これをきっかけに準備もしていきたいです。そして、もう一つ気になった言葉がありました。それは、被災企業の経営者の方の「一時断水しましたが、井戸を設置していたので支障はありませんでした」という言葉です。最近では、実際に井戸を残す、手押しポンプを設置する取り組みも出てきているそうです。井戸は残して、手押しポンプを設置するというのを実行していけば、水がなくて困るということは少しずつでも減っていくのではないかと思います。

ですが、学校に行くと水道が出しっぱなしになっていることがありました。自分が使い終わったならすぐに閉めればいいのに、と思いながらすぐに閉めます。出しっぱなしにな

ってたら、その分、水がなくて困っている人に分けてあげたい気持ちです。これからは、一人一人が気をつけていってほしいです。

こんな、美味しい水道水が飲めるのも、浄水場で働いている人たちのおかげでもあります。私は、小学生の時に学校で浄水場の見学に行きました。そこでは、私たちが水として安全に飲めるようになるまでには、たくさんの工程があるという事を教わりました。関わってくれている人たちに感謝しないといけないなと思いました。

今回、水について考えて、水はないと生活できないものなんだと改めて知れました。また、震災がおこって初めて水の大切さに気づきます。これからは、水が不足した時のために、準備しておいたり、水を使えるようにしてくれている人たちに感謝の気持ちを持って、使っていきたいです。

■審査講評

普段格別に意識せずに使っている我が国の水道水の安全性に改めて気づき、それを支えている人達への感謝の思いが綴られていました。

また、日本の水道を支える技術を取り上げ、東京オリンピックなどを通して、世界に発信していきたいと考える、中学生らしい広い視野に立った作品も見られました。

中学生ということもあり、水道の歴史や現状についてよく調べ、自分の考えを述べていた作品が多くありました。日常生活の中で身近である水道や「水」に対する関心がさらに高まり、大切にしていこうとする姿勢が伝わってきました。

◆審査員

○図画の部…会津若松市立城北小学校　長澤　久仁　先生
会津若松市立北会津中学校　山口　功　先生
水彩連盟会津　森田　慶一　先生

○書写の部…会津若松市立行仁小学校　兼子　真美子　先生
会津若松市立河東学園中学校　佐藤　寿広　先生
会津書作家協会　山内　翠雲　先生

○標語の部…会津若松市立神指小学校　石川　要一朗　先生
会津若松市立第五中学校　石田　紀子　先生
あいづ川柳会　小林　左登流　先生
会津詩人協会　福西　トモ子　先生

○作文の部…会津若松市立河東学園小学校　久保田　晶子　先生
会津若松市立第四中学校　大塚　初美　先生
会津書作家協会　大沼　辰雄　先生

◆入賞者表彰式

日時　令和元年6月3日（月）午後4時から
場所　会津若松市生涯学習総合センター（會津稽古堂）

★おわりに★

ここに掲載されている作品は、水道部のホームページでもご覧いただけます。

他に、優秀賞（各5点）、佳作（各10点）も含めた全ての入賞作品が全国展に送られ、審査されます。

みなさんからのたくさんのご応募、ありがとうございました。来年も多くの作品をお待ちしております。

第61回水道週間児童生徒作品展入賞作品集

令和元年６月 発行

発行　会津若松市水道部

編集　水道部総務課

〒965－0064　福島県会津若松市神指町大字黒川字石上33－2
TEL（0242）22－6073 ／ FAX（0242）22－6173
https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/bunya/suido/